

11月の安全運転のポイント 平成2年 11月号

車で外出したときには、レストランやショッピングセンターなどの駐車場を利用することも多いでしょう。駐車場は道路に比べると、車の走行速度も遅く、通行車両や歩行者が少ないこともあって、緊張感が緩みがちです。そのため周囲に対する注意力が低下したり、運転の慎重さを欠いて事故を起こすことがあります。そこで今回は、駐車場における事故防止について考えてみましょう。

駐車場での事故パターン

バック時に駐車車両や歩行者と接触

車の後方は死角が大きく、駐車車両との距離や間隔を的確に判断したり確認するのがむずかしくなります。そのため、あわててバックをしたり見込みでバックをすると、駐車車両や歩行者と接触する危険があります。

また、駐車車両のなかには、斜めに駐車している場合もありますから、状況を事前に十分チェックせずにバックをすると、接触する危険が高まります。

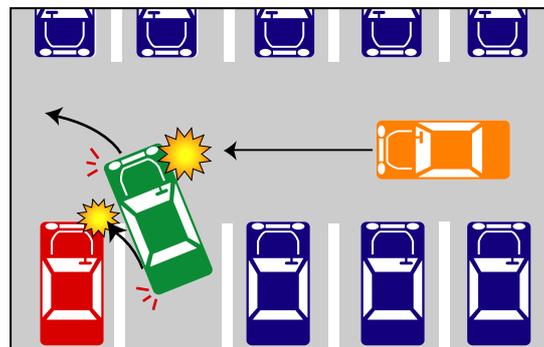


図 1

発進時に駐車車両や通行車両・歩行者と接触

車が右左折するとき、後輪は前輪よりも内側を通ります(これを内輪差といいます)。そのため駐車車両の間から右左折して発進していくとき、左右の駐車車両との間隔に注意しないと、車体の後部が接触する危険があります。また、発進時に駐車車両だけに注意を向けると、通行車両や歩行者を見落として接触する危険があります(図1)。

特に隣の駐車車両がワンボックスカーなどの場合は、通行路の死角が大きくなりますから、通行車両等の発見が遅れるおそれがあります。

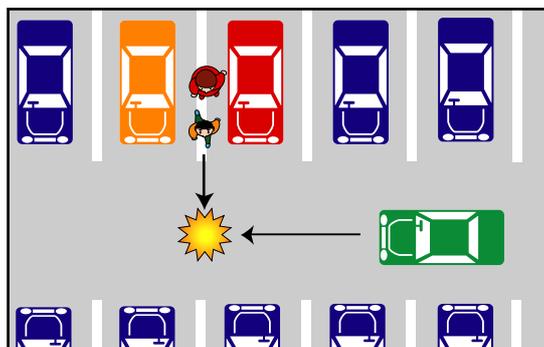


走行時に駐車車両の間から出てきた歩行者と接触

レストランやショッピングセンターなどの駐車場は、家族連れも多く、子どもや高齢者も通行しています。道路と異なり駐車場では、車に対する歩行者の警戒心も薄れがちで、車の有無を確認せずに駐車車両の間から出てくる危険があり、重大な人身事故につながることもあります(図2)。

特に子どもの場合は、背が低いために駐車車両に隠れてしまい、ドライバーからも子どもからも、お互いに発見が遅れるおそれがあります。

図 2





駐車場で事故防止のポイント

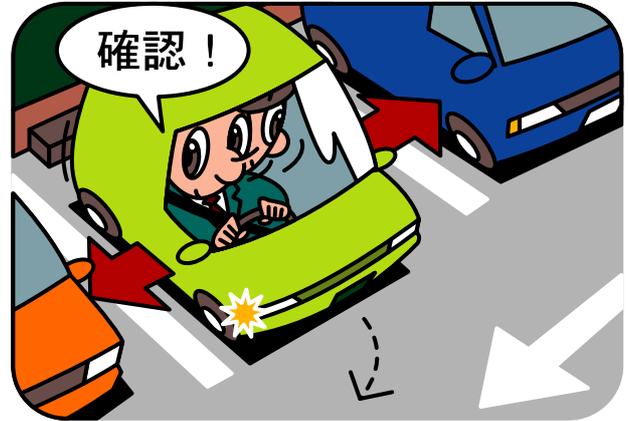
歩くくらいの速度でバックする

バックして駐車するときは、歩くくらいの速度で徐々にバックし、少しでも接触する危険を感じたときは、決して無理をせずもう一度やり直しましょう。また、同乗者がいるときは、降りて誘導してもらいましょう。



発進時は駐車車両との間隔に注意する

発進時は、両脇の駐車車両との間隔に十分注意するとともに、通行車両や歩行者が接近していないかどうかを必ず確認してから、ゆっくりと発進しましょう。



駐車場内は徐行して進行する

駐車場内は、通行車両や歩行者の動きに注意しながら、いつでも停止できる速度で徐行して(時速10キロメートル以下)進行しましょう。



駐車スペース内にきちんと駐車する

駐車するときに、車体を斜めにしたり区画線をはみ出すと、自転車だけでなく、他車に事故を起こさせる原因ともなりますから、駐車スペース内にきちんと駐車しましょう。



駐車場に入るときと出るときの留意点

駐車場に入ったりするときには、必ず歩道や路側帯の直前で一時停止して、通行してくる歩行者や自転車がいないかどうかをよく確認しましょう。

道路交通法第1条第2項により、「道路外の施設に入ったりするために歩道等を横断するときは、その直前で一時停止し、歩行者の通行を妨げないようにしなければならない」と定められています。

「ご相談・お申込先」